

ふらっとふらわーず ニュース

- 季節の花：キク・ハギ
- コラム：光合成と呼吸
- 情報：花のイベント

- 発行：ふらっとふらわーず
- 2014秋号：第8号
- 連絡先：042-682-2835
- 編集委員：内田信子

季節の花

★【キク（菊）】 キク科キク属

菊は日本を代表する花の一つで、主に秋に開花します。英名の「Chrysanthemum」(クリサンセマム)は、ギリシア語の「黄金の」と「花」に由来します。原産地は中国で3000年余の歴史があり、日本には奈良時代中期に遣唐使などによってもたらされたと言われています。当初は宮中をはじめとする一部の階級層の間で観賞用の花とともに薬用として用いられていました。桃山時代になり、白色の花だけの菊に黄色や桃色と言った新しい色が生まれ、元禄期に菊は広く庶民の間に普及し、今日に見られる日本独自の多くの品種が生まれました。19世紀に入り欧米に渡り、ヨーロッパでスプレー菊、アメリカではポットマム(鉢植え(ポット)のキク)が生み出され、世界各地で切り花、鉢物や花壇花として改良が進み、世界三大切花(バラ・カーネーション)のひとつとされる今日の菊が作り上げられました。分類の仕方でも多数あり、大菊・古典菊・小菊・和キク・洋キクなどで分けられ、例えば大菊(花の直径が18cm以上)の中でも、さらに花型によって「厚物」、「管物」、「広物」に分けられ、またさらにその中でも分類されます。さらに仕立て方でも「二本仕立て」「一本仕立て」「懸崖作り」などたくさん仕立て方法があります。

パスポートの表紙には、その国の紋章を入れることが国際慣行となっていますが、日本の場合法制上正式に決められた国章がないため、伝統的に国を代表する花の一つである菊花を圖案化した旅券の紋章として使用してきています。なお、皇室の御紋章は菊花十六弁に複弁(弁と弁の間から先端が覗いている十六弁)を加えた「八重菊」ですが、現行の旅券は、このような複弁はなく、単一の重菊となっています。ちなみに、皇室の菊の御紋の起源は、後鳥羽天皇の下で鍛えられた刀に刻まれた菊花紋であるといわれています。このように本当に古い歴史のある花です。



栽培環境：通年、日当たりのよい屋外で育てます。花後に地上部を切り取って屋外で寒さに当ててください。水やり：用土の表面が乾いたらたっぷり与えます。肥料：3月ごろ、春先に芽が伸び始めたら10月まで緩効性化成肥料を施します。

ふやし方：太く充実した新芽の先端を5cmほどに切り取り、発根剤をつけて清潔な用土にさします。

花言葉

「高貴」「高潔」「私はあなたを愛する」(花言葉事典より)
 (参考：趣味の園芸、公益社団法人農林水産・食品産業技術振興協会、有限会社精興園、隠岐神社、外務省)



★【ハギ（萩）】 マメ科ハギ属

秋の七草の一つであるハギは、「万葉集」に最も多く詠まれていて、菊同様に、こちらも古くから日本人に親しまれてきた植物です。「萩」という漢字に「秋」が入っています。中にはキハギ(花色は赤紫色)のようにも6月下旬〜8月にかけて花を咲かせる種もあり、ハギの仲間は種類が多く、なかでも最も広く栽培されるのがミヤギノハギです。ヤマハギは日本全土に自生し、ミヤギノハギに比べて全体に繊細な印象で、野趣に富んだ姿が魅力です。どれも栽培容易で、秋の風情を楽しむことができます。ハギという名前は株からたくさん芽を出す様子を表す「生え芽(はえぎ)」から来ているといわれています。

葉は3枚の小葉からなる複葉です。葉身(葉の本体)が分割せず、1つであるものが単葉。葉身が全裂しており、2個以上の部分に分かれているものが複葉といえます。マメ科やカタバミ科、などでは複葉のものが多く、クローバーやナンテンも複葉です。種子植物では単葉から複葉への進化が何回も起こったと思われる。それは、単葉よりも複葉の方が大きな葉っぱで太陽をたくさん取り込み、同じ葉面積の葉を展開・落葉させるのにエネルギー消費が少なくて済むからではないかと考えられています。植物は本心に賢いですね。

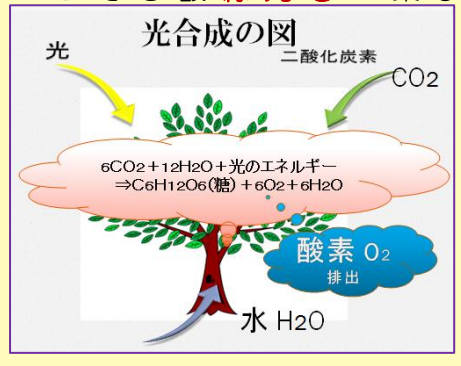


前回は「植物のおかず」は「肥料」というコラムを書かせていただきましたが、今回は主食のお話です。生物は生きるためにエネルギーを必要とします。このエネルギーの源は太陽の光です。ところが、この光のエネルギーはそのままでは保存ができません。しかし、葉緑体を持つ植物だけは、この光のエネルギーを特別な方法で保存できる形にする能力があります。それが光合成です。光合成とは？葉の葉緑体が光のエネルギーを受けて、二酸化炭素と水からブドウ糖をつくることによって、光のエネルギーをそのブドウ糖に閉じこめてしまっています。

コラム 植物のおかず

光合成と呼吸

「思案」「思い」「柔軟な精神」(花言葉事典より)
 (参考：趣味の園芸、ヤサシイエンゲイ、筑波大学生物学類)



ちなみに二酸化炭素は葉の裏側にある「気孔」から取り入れられ、水は「葉脈」から取り入れられます。そして、作られたブドウ糖を、その場ですぐに保存しやすいデンプンに作りかえてしまっています。植物はエネルギーをためこむだけのためにデンプンをつくるわけではありません。生きるため、成長するために、昼でも夜でも常にエネルギーが必要で、光合成をするにもエネルギーは必要なのです。このエネルギーをデンプンを分解することで得るのですが、このことを「呼吸」といいます。

呼吸は、外呼吸と内呼吸に分けられます。呼吸と言えは「酸素を吸って二酸化炭素を排出する」事と思いますが、これは「外呼吸」といって「酸素と二酸化炭素の交換」を行います。植物は気孔から酸素をとり入れ、二酸化炭素を放出しています。光合成とはまったく逆のはたらくですが、呼吸は夜だけでなく昼も行われています。晴れた日の日中は、光合成のほうがはるかにさかんなので、呼吸はほとんど目立ちません。

「内呼吸」は「有機物を分解してエネルギーを取り出しATPを生産」します。ATPはアミノ酸、リン酸のことで、エネルギーの放出・貯蔵、物質の代謝・合成に重要な役割を果たす化合物です。ATPは成長のさかんな部分や果実へ送られます。光合成で作られたデンプンを分解してまたブドウ糖に戻し、生長に役立てています。

光合成とは・・・植物が、自分自身で生きるための栄養分を作り出すもの。呼吸とは・・・そこで蓄えた栄養分を生長エネルギーに変えるもの。こんな複雑な生命活動を植物は日々行っているのです。

(参考：考える学習をすすめる会、りかちゃんの手帳)



情報 花のイベント

(事前にご確認ください)

- 萩まつり
 9月13日(土)〜10月5日(日) 向島百花園
- 日比谷公園カーテングショー2014
 10月18日(土)〜10月26日(日) 日比谷公園 菊花壇展
- 11月1日(土)〜15日(土) 新宿御苑 東京都観光菊花大会
- 11月1日(土)〜23日(日) 都立日比谷公園内草地広場